

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700963		
法人名	有限会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム上佐幌ふれあい館		
所在地	〒081-0035 北海道上川郡新得町字上佐幌基線 8 6 番地 (電 話) 0156-69-6565		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成21年10月26日	評価確定日	平成21年12月8日

【情報提供票より】 (平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 17 年 3 月 22 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	11,000~20,800 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (25,200円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 700 円		

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	3 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	サホロクリニック わたなべ歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

廃校となった小学校を改修して開設した当事業所は、面積が広く、居室と共用空間の行き来や排泄、入浴など生活動作をすること自体での歩行距離が大変長い上、毎日の生活が自然なりハビリになっている。事業所周辺は広大な畑が広がり、農家から新鮮な野菜や山菜などが届くことも多い。また、利用者は散歩コースの途中にある神社にお参りをしたり、近隣の住宅の花畑を訪れている。職員は利用者が人生の先輩であることを認識し、料理の作り方を学んだり、日常生活の中で本人のできることを一緒にしながら生活リハビリも兼ねた役割支援を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回評価での改善課題であげられていた独自のパンフレットについては作成している。また、訪問診療については役場や家族とも話し合い、検討している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>自己評価表は職員全員に配布し、記入したものを持ち寄り、話し合いをしてまとめている。話し合うことによって新しい職員がグループホームについてさらに理解することにも役立っている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、地域住民代表、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表などが参加し、2ヶ月に一度開催している。行事の案内や報告などを行うほか、外部評価に基づいて改善に向けて話し合ったり、地域包括支援センターからのアドバイスをもらうなど、外部からの意見を聞く機会となっている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>毎月1回担当者が本人の日常の様子について手書きの便りを発行し、家族来訪時には必ず話を聞くようにしている。何かあれば、家族からも電話がある。苦情相談窓口は重要事項説明書に明記し、事業所内にも掲示している。また、家族同士の交流の機会も設けている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>町内会に加入している。地域の老人のサークル活動から誘いがあり、事業所の共有空間で一緒にフロアカーリングをするなど、交流している。夏祭りや収穫祭など地域の行事に参加したり、散歩時に近隣の家に寄って花をもらってきたり、さらには、農家の人達が採れた野菜などを届けてくれることもある。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人のケア理念として社会とのつながりを考えることを掲げているほか、事業所独自にも職員が協議し、つくりあげた理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が事業所独自の理念を記載したカードを携帯しているほか、館内に大きく掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事に参加している。事業所の広い共有空間を利用して地域住民と一緒にフロアカーリングで交流をしたり、農家から畑で採れた野菜が届けられることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に自己評価表を配布して記入し、全体で話し合い、まとめている。話し合いを通じて、新しい職員がグループホームのことをさらに理解する機会としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。会議では、行事案内や報告のほか、評価結果に基づいた話し合いも行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加しているほか、必要に応じて相談を行い助言を仰いでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、担当職員が利用者の状況等を記載した手書きの便りを金銭出納と一緒に家族に送付している。また、状況変化があった場合などにはその都度電話で連絡を取るとともに、家族の来訪時にも報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	心配なことなどがあれば家族から電話がある。運営推進会議のメンバーに家族の代表も入っており、家族同士が交流する機会もある。重要事項説明書には事業所の苦情相談窓口とともに外部の苦情相談窓口を明示し、事業所内にも掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職などがある場合には職員が利用者に説明をして、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験、職種等により全員が年に1～2回行う法人内の研修に参加できるようにしている。終了後は報告書を作成し、スタッフ会議で報告をするようにしている。町主催などの研修などにも参加するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームと行き来をして利用者同士が交流し、職員同士の情報交換なども行っている。		
に					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には家庭訪問をし、本人に納得してもらえるよう事業所内の見学を行い、お茶を飲みながら職員やほかの利用者と交流ができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が得意な行事食を作ったり、料理など様々なことを利用者から学んでいる。掃除や食事の準備、後片付けなど共に行い、支え合う関係づくりをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受診を希望する病院、食べたいもの、外食など一人ひとりの希望等の把握に努めている。また、自分からはなかなか言えない利用者にも説明をし同意をもらってから支援をするよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向は来訪時に聞いている。ケアカンファレンスを行い、皆で話し合って介護支援専門員が介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	それぞれの利用者の経過については、毎月モニタリングを行っている。必要な場合には介護計画の定期的な見直しの前に新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の共用空間にフロアカーリングのコートを用意し、地域に開放している。利用者の要望に応じて通院後に自宅や家族宅に立ち寄ることで本人の安心につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれにかかりつけ医がいる。職員が通院に付き添い、医師の話を聞き家族に説明したり、必要に応じて家族が来ることもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けては、家族の面会時に話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導時などには耳元で言葉かけをするなどプライバシーに配慮し、利用者の記録は決められた場所に保管している。個人情報の保護方針は共用空間に掲示している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の一人一人のペースや意向にできる限り沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には、母体法人からの献立で食事を作っている。週に2日は利用者と職員が相談しながら献立を作成し、買い物に行って利用者が食材を選んだりしている。食事の準備や後片付けなど、利用者の力を活かしながら一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、毎日入浴できるようにしている。入浴の時間は一対一で話を聞く時間として大切にしている。また、温泉に行くことなどもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で食事の支度や後片付け、掃除などの家事を役割としている。また、折り紙、知恵の輪、ぬり絵、カラオケ、通院帰りの買い物、地域住民とのフロアカーリングも楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の近くに神社があり、日常の散歩コースとなっている。また、農業を営んでいる家で、牛、鶏などを見学したりしている。家族と一緒に果物狩りに出かける機会もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を共有している体育館は夜間も地域住民が使用することがあり、体育館の開館時間内には施錠をしていない。事業所の入り口にはセンサーがあり、出入りが確認できるようになっており外出希望時には職員と一緒に行動している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度から避難訓練は、年2回行うことになっている。また、火災等の場合には地域の消防自衛団が駆けつけてくれる体制となっている。事業所の建物と隣の体育館は元は小学校であり、災害避難場所に指定されているため食糧備蓄品なども用意している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近隣の農家から届く新鮮な季節の野菜なども食卓に上っている。食事量は個別にチェックし、医師の指示により水分量の管理が必要な利用者については記録をしている。また、刻み食などにも対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から陽が十分に入る共用空間は非常に広く、冬期は床暖房になっている。応接セットや食卓テーブルなどのほか舞台もあり、地域のボランティアが得意なことを披露する場所にもなっている。職員と利用者が折り紙で一緒に作った季節の飾りや利用者の写真なども掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も広々としており、仏壇や冷蔵庫、ソファやタンスなどの家具やラジカセなどを持ち込み、本人にとって安心して過ごせる場所となっている。また、命日に寺の住職にお参りを頼んでいる利用者もいる。		

※  は、重点項目。